

令和6年度第2回岡山県立博物館協議会議事概要(要旨)

日時 令和7年3月21日(金) 10:00～12:23
会場 岡山県立博物館 講堂
出席者 委員：岡野議長、三田副議長、仲原委員、忠政委員、栗原委員、明楽委員、美咲委員、
青山委員、富山委員、大久保委員、内田委員、岡田委員
博物館：細川館長、内池副館長、間野総務課長、松井学芸員、平田学芸員、馬野学芸員、
上岡主任
文化財課：浜原課長
欠席者 辻田委員、伊勢崎委員、鳥井委員

1 開 会

細川館長あいさつ

2 議 題

- (1) 令和6年度事業について
- (2) 令和7年度展覧会計画(案)について
- (3) 長期展覧会計画(案)について
- (4) その他

【委員からの質問(回答)・意見・提案・要望】

議題(1) 令和6年度事業について

- ① 茶碗展に友人と一緒にいった際に、県立博物館はどこにあるのかと聞かれて驚いたが、今回の特別展は県立博物館のことを知っていただくよい機会になったと思う。また、特別展の入館料は安いとも言っていた。この金額は何かで決まっているのか。(質問)
⇒条例に基づいて設定している。入館料が安いと言われることもあるが、安く設定することで多くの方に見ていただきたいとの思いもある。
- ② 県立博物館は公立の社会教育施設なので、できるだけ多くの人に見てもらうために入館料を安くするということはあるが、観光的な視点を持って利用者数を増やそうと考えるならば、県外や海外からの方の入館料は、今後見直していく必要があると思う。県立施設全体の問題ではあるが、いろいろなコストが増加して運営が厳しいのなら、それなりの入館料をいただくことも検討すべきだ。(意見)
- ③ 県内と県外の方の入館料の差別化についても意識したほうがいいと思う。(意見)
- ④ 県立博物館だけの問題ではないが、多言語化、せめて英語だけでももう少し充実させるべきで、東京国立博物館では120字程度の日本語のキャプションを作り、それを英訳するようにしている。その程度でもかなり満足してもらえる。(要望)
⇒まずは日本語でのわかりやすい説明を作ることから頑張りたい。また、県立博物館のデジタルミュージアムに英訳を追記し、展示室内のQRコードと接続するなど、いろいろな手法を試してみたい。
- ⑤ 入館者数の目標5万人には何か根拠があるのか。(質問)
⇒明確な積算根拠はなく、過去の年間入館者数の実績を踏まえてこれまでも年間5万人を目標に設定してきており、現在もそれを踏襲している。
- ⑥ 収支のバランスとかではなく、過去の実績を見て設定しているということか。(質問)
⇒当館の運営予算は年間9千数百万円で、そのうち展覧会の開催予算は1500万円程度である。その1500万円を入館料でまかなおうとすると、かなり多くの方に入館いただくか、高い入館料を設定しなければならなくなる。こういった状況の中で、まずは入館者数5万人という目標を設定している。
- ⑦ 条例に基づいて入館料を決定しているとのことだが、条例はいつ制定されたのか。長年変わっていないのではないかと。現状と全くあってないし、特別展の入館料が450円というのは展覧会のクオリティともマッチしていない。昨今の輸送費や光熱水費の高騰で、博物館や美術館は経営が厳しい状況だ。いいものを見ることは県民の文化の向上にもつながるし、県民にとって誇りに思えるような博物館であってほしいので、今回の茶碗展の状況を踏まえ、入館料の見直しを検討してもよいのではないかと。(提案)

⇒条例は開館時に作られたものだが、皆様からいただいたご意見は今後の課題として検討させていただきます。

- ⑧ 入館料の値上げは慎重に考えていただきたい。上げすぎると意識の高い人しか来なくなるかもしれない。ふらっと来たついでに入れる額で素晴らしいものが見られることも大切だ。(意見)
- ⑨ 入館料が高いことで、それに見合ったよい展示だと思われる可能性もあるし、逆に高すぎると足が遠のくこともあるので、慎重に考えなければならないと思う。(意見)

議題 (2) 令和7年度展覧会計画(案)について

- ① 展覧会の入館料収入は全額が県立博物館の歳入予算に充当されるのか。(質問)
⇒入館料収入の一部が充当され、一部は県全体の予算に充当される。
- ② 県立博物館は莫大な利益を上げることが目的としているのではなく、広く認知してもらい来館者数を増やしていくことが一番の目的だと感じた。また、あまり根拠のない5万人という目標ではなく、例えば後楽園入園者数の1割に当たる8万人などの具体的な目標を設定すべきだ。目標達成のためには、SNSを活用した広報活動と学芸員のモチベーションアップを図るべきである。例えば、いい特別展を企画した学芸員には次回の特別展の予算を少し増額するなどのインセンティブを与えるような仕組みを検討してもよいのではないか。優秀な学芸員の確保にもつながるはずだ。(意見)
- ③ 収入は簡単に増えなくても、入場者数を増やそうとするなら、高校生以下の子どもたちもターゲットにすべきだ。子どもたちが喜ぶのは、クイズラリーのように達成するとバッジや景品がもらえるような企画だ。そこから興味を持って学びにつながることもあるかもしれないし、夏休みやゴールデンウィークに家族での来館も増やすこともできるのではないか。(提案)
- ④ 来館者数の分析は必須事項である。どう活かしていくかも平行して考える必要はあるが、データを蓄積することで損はしないので、男女比とか小・中・高校生の別とか確実にわかりそうなことはデータとして貯めておくべきだ。(意見)
- ⑤ 令和7年度に予定している花ごぎの特別展はいいと思う。以前花ごぎを手配することがあったが、地元や国産のものは無く外国産しかなかった。年配の方は花ごぎに関する知識が多少はあるが、若い人たちはあまり知識も無く、身近なものかどうかもわからない。この特別展においては地元の生産組合などとも連携するのか。(質問)
⇒地元の生産者はもちろん、福岡県や熊本県などの方の協力も得る予定だ。過去を振り返るだけでなく、未来を切り開いていくような展覧会にしたいと考えている。
身近に使ってもらえるものとして広がっていくといいし、そのためにはPRの仕方も考えたほうがよい。
- ⑥ 花ごぎ展の時期は岡山芸術交流を開催しているし、今年は瀬戸内国際芸術祭や万博、カルチャーゾーン40周年もあるので、連携したPRを考えてはどうか。花ごぎは非常に貴重なもので、美術に関心がある人が見ても図案的に面白いと思うので、うまくPRすべきだ。(提案)
- ⑦ 年に1回ぐらいは有名な方をお招きしてキャッチーな企画を実施してもらいたい。これをきっかけに子どもたちにも博物館を知ってもらえるかもしれない。学芸員の皆さんは多忙だと思うので、そういうときこそNPO等が協力できるはずであり、地域の方を巻き込んで企画してほしい。(要望)
⇒博物館・美術館との連携だけでなく、異なる分野との連携についてのご指摘もあるので、何か実現できる方向で考えたい。
- ⑧ 茶碗の特別展が非常に良かったとのことだが、令和7年度の予算では、広報強化の予算は増えているものの、特別展の予算が減っているのはなぜか。(質問)
⇒予算は総額で査定されているのではなく、内訳ごとに査定される。今年度の特別展が好評であっても、過去の実績を踏まえて査定をされる。特別展を増やした方がいいのではないと思われるかもしれないが、広報に関する予算、特別展に関する予算がそれぞれで査定された結果がこの予算になっている。広報に関する予算の増額は、財政当局がその必要性を理解してくれた結果だ。
- ⑨ 利益をたくさん出せば一般財源を減らされるのか。(質問)
⇒入館料収入が増えても、ある一定の額を超えた部分は県の財政当局に流れる仕組みになっている。また、博物館の収入が増えたとしても、支出の予算額が増えなければ使えな

い仕組みになっている。

議題（３）長期展覧会計画（案）について
意見等なし

議題（４）その他

- ① 若い学芸員の頑張りなどを聞くと、博物館がすごく挑戦していると感じた。いろんな縛りはあると思うが、やりたいことがあるならば業界を超えてつながるということは必須である。また、子どもたちに対してもいろんなことを仕掛けてくれている。職員数が限られている中で取り組んでくれており、私たちに相談してもらえたらできることもあると思う。
（意見）
- ② 県北にいるといろいろなものに触れる機会が少ない。子どもたちは画面を通じた疑似体験はできても、博物館にある展示物のような本物に触れる機会は少ない。わざわざ遠くから来なくても、何らかの方法で見ることができるようになれば、興味を持って自ら足を運んでみようとする子どもたちも出てくるはずだ。そのような機会が県北地域でも増えると、結果として入館者の増につながったり、興味を持って学芸員になろうという子どもたちが増えると思う。（意見）
- ③ 出前授業に行けない学校に体験キットを貸し出すことは、博物館まで来られなくても体験できる機会になるのでいいことだ。スタンプラリーを実施してバッジなどを景品にしてはとの意見があったが、子どもたちはバッジの色が次々と変わるだけでまた来たいと思うし、親も一緒に来てリピートにつながると思う。（意見）

3 閉 会